

琉球大学学術リポジトリ

[抄録] ルイジアナにおける薬剤によるサトウキビ メイチュウ防除の発達

メタデータ	言語: 出版者: 沖縄農業研究会 公開日: 2009-01-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 東, 清二 (抄録) , Azuma, Seizi メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/0002015246

ルイジアナにおける薬剤によるサトウキビ メイチュウ防除の発達

(S.D.Hensley, E.T.Concienne, W.J. McCormick,
and L.J. Charpentier, 第13回国際糖業学会発表論文
1968)

ルイジアナにおいてはサトウキビメイチュウ *Diatraea saccharalis* の防除にエンドリン剤を使用してきたが、1963年来それに対する抵抗性系統が出現し、それに代る農薬が必要とされていた。ところでここ10年来使用された農薬の形態をみるとほとんどが粒剤である。最近浸透性殺虫剤が出現し、また航空散布の技術も発達して高濃度薬剤の微量散布も可能となったので、各種薬剤を用い航空散布による試験を行なった。その成績を報告する。

薬剤はAzinphosnethyl 7%粒剤 (有機燐剤), 同水和剤, Azodrin 10% 粒剤 (有機燐剤), 同乳剤, Furadan 3%粒剤 (カーバメイト剤), Carbaryl 20%粒 (カーバメイト剤—NAP), 同80%水和剤, エンドリン 2%粒剤, Endosulfan 3%粒剤 (有機塩素剤) を用い, 乳剤または水和剤は水と約 1:2~5 の割合に混合して1エーカー当たり2ガロンを, 1令幼虫による加害率5%程度に達した時期から3~4週間おきに3回散布した。1区面積は1~5エーカーとし, 調査は収穫時に各区50莖あて選び, 加害節数から防除効果を算定した。成績は表のとおり Azinphosnethyl と Azodrin がよく, 78~86%の防除効果があった。Furadanは81%で, エンドリンは60%以下の防除効果であった。それらのことからAzinphosnethyl や Azodrin 剤の高濃度散布または粒剤散布でエンドリン抵抗性系統のサトウキビメイチュウを防除し得ることがわかった。

薬 剤 名	エーカー当 たり散布 量(成分 量)	試験 回数	防除効果
Azinphosnethyl (7%粒剤)	1.00 [#]	8回	86%
〃 (2ポンド/ガロン)	0.75	2	78
Azodrin (10%粒剤)	1.00	1	78
〃乳剤 (5ポンド/ガロン)	0.75	2	84
Furadan (3%粒剤)	0.45	1	81
Carbaryl (20%粒剤)	3.00	4	57
〃 (80%水和剤)	3.00	1	53
エンドリン (2%粒剤)	0.30	7	57
Endosulfan (3%粒剤)	0.45	4	49

(抄録 東 清二)